911.3
八
秋冬

秋之部標目

七月

立秋 初丁 一葉 二丁 蒲柳 七夕 初嵐 二丁
朝 絲瓜 木槿 桔梗 桔もとき
百日紅 秋蝶 魂祭 四丁 墓参 九丁 つと入 三十寸
盆月 五丁 焚篝 虫 六丁 きりぐす 七丁 蛙吟
踊 お撲 稲妻 八丁 霧 夕 かり
花火 ねぶの花 十丁 茅花 茅萱 蚊くべ
乞秋 十二丁 蓋拜 雜以花 十二丁 西瓜

八月

十三丁 三日月 稲 ひろう 稔多

木啄鳥十四丁　秋山　吉野　秋ゝは　秋ゝ　十五丁
芋　葛　豹葉　鶉　牡丹
秋爲　唐辛子十六丁　ゝら　秋風十七丁　蛬十八
小鯛引　放生会　初夕　秋月　廿二丁　月十九
十二夜　廿一丁　蕎　秋日　廿三丁　秋ゝ　葉山子
鳴子　廿三丁　添水　廿四丁　蘇　鳥　廿五丁　鶺鴒
砧　廿六丁　ゝゝ　廿七丁　籠　帰燕　芦穂
秋惜　廿八丁

九月

秋扇　七夜　色ゝ　秋杉　秋綿　秋酒
菊　芭蕉　三十丁　蕎水　茸狩　廿一丁　榊

栗　迷宮　升市　秋雛　紅葉　廿二丁
さびゝ　廿三丁　十三夜　秋ゝ　廿四丁　秋雲　夜ゝ
末枯　廿五丁　移秋　木槿　菜萸　秋夕　廿六丁
四ゝ秋　廿七　九月尽ゝ　廿八丁

冬之部標目

十月

初冬 智 時雨　冬日 三丁　玄猪　麦蒔
口切　炉開　巨燵 四丁　火桶　埋火 五丁
炭　姑くん 六丁　衾　足袋　小春
石蕗花 七丁　枇杷花　山茶花　達磨忌　十夜
浄瑠璃 八丁　夷講　涉禹越　冬牡丹　帰花
落葉 九丁　風　枯野 十丁　冬野 十一丁　冬枯
寒　榾 十二丁　河豚魚　夜具引　散紅葉
細代字 十三丁　埜菜漬　淺漬　頭巾　冬籠
千鳥 十四丁　水鳥 十五丁　海鼠　大根引 十六丁　古墓

冬月 十六丁　神無月 十七丁　冬田　枯芦　枯桐
千草　紙衣　納豆 十八丁

十一月

霜　冬至 十九丁　茶喰　暦賣 二十丁　鵠鶴
冬梅　暖鳥　水仙　鷹狩 廿一丁　彩人世
錦　茅花　冬蕨 廿二丁　冬木立　冬川
冬垣離　雑冬　髪置　氷柱　氷
雪 廿三丁　霰霙　神乗 廿四丁　沖鼓 廿六丁　牡蠣

十二月

冬至梁　寒声 廿七丁　冬念仏　臘八　仏名
節季　年内立春　追儺 廿八丁　年籠　師走

仙屋敷　年掛 廿九丁　年市　衣配　年忘
餅つき 三十丁　行年　年暮　大晦日　終年 卅一丁
囲碁　年刈　宝永　年尾温交

雜部

發句類聚　秋部

青顧廬了輔　編輯
八朶園寶松　刪定

七月

立秋

秋風や心ゝこゝぬ鶴ゝ　嵐雪
二三尺ゝ秋ゝ入ゝ　蓼太
葉ゝ汁の一ゝ口ゝ入ゝ秋ゝ　六窓
秋きぬと目にさやかなり稲の穂　故班象
陰ゝ帛ふたつやけさの秋　栁絮
鬱ゝ秋ゝ立ゝ入ゝ山ゝ　長梧
秋立や赤蕪葉ゝおもたれ　蘭室
けさの秋ゝ蓮ゝ葉ゝ蓮ゝ　完来

秋きつゝ井いまさ寄のこし風　吐月
数の足も大事に踏むやはさの秋　十六　大江丸
ゆきたつやひるてきれる明り雲　登秋
ひまりや月毛の駒よ寄の秋　月巣
ちり紙の歪んてあるちりさの蝶　スヽカ　巴明
朔日は涼よ秋の光りちな　木羽
鳥はうしろ波はまゝ　はさの秋　百鏡
元弦のたゝしとはまるけさの秋　芦洲
秋ちる雫　柳ちる入てちる人のちる　下毛　魚文
蝉の羽乃ちゝ乃ちけさ乃秋　一扇
菜の色淡ちるはさきの伝き　提國

秋の菓

秋立小森ちるのちかよ男達　楚水
あ寄不のまゝ寄中よち一ちるの形　寥松
彩とんし井ちる瓶よ一菓小　蓼太
菓て後ちるはくこ相ひと紫　吐月
ゆちつまれ雷まれち一菓の形　午心
いちちや極ひこしてちる柳　李文
一月よちてちのちお柳ちる　蓼太
ちる柳西の大寺ふ日ち入ぬ　吐月
七夕乃降とおまちちお世小　六窓
ゆし合やちちつ寄のまちる　嵐雪
沙羅

数柳

七夕

笠合やあまにも秋の日和哉　不騫

砂ならし後ひとかへらせし星迎　故班象

恋しさやとゝつくろふ秋の空　兎陸

星合や庭の涼入乃跡の露　冰花

明やすき星逢つまんとかし一夜　蓼太

七夕は養孫ふ星や蝶々哉　完来

まめいをぬ恋のはしめやふみつ星　百卉

七夕やうらみ見しらぬ哉おもひ　露文

真桃やふらふらたる天の川　嵐雪

秋ましし松みかうてはまの水　蓼太

舟投てとゝきさうし天乃川　雪凍

思ふ事書はさらり梶のうら　文鱗

鵲の橋らける夜は月ありけり　立冬

さられしやまゝ添はおもふ歌はなし　寥松

初嵐

蜩

照あかゝる日のちるなや初嵐　京 嘯山

日くらしや蝶も浅茅る秋の葎　蓼太

蜩の名乎鳴尽しは命の殿　栖壷

ひくらしや扇の鼓し浪の上　菸笠

蜩や海すに穿るくの木京　寥松

秋風

冬風

花落る月よりかゝりて秋風かな　玉宇

冬風や一艘たゝき秋の声　吐月

冬風や漂ひされて将老ト　慎亭

木槿

枝折き大塚堀のこれる木槿かな　周竹

むくるるや日もすがらの木槿かな　普成

蒲丈

夢さめて大海原の木槿かな

鰐菓

八日の月ぬるるや家の木槿

蓼太

桔梗

桔梗の家住て完ひつ同じ桔梗かな

吐月

雪萬

桔梗

百日の月の名は桔梗

班象

秋墨

くるいし百日の月の名は桔梗

蓼太

くるしんれたやもめふるぬ秋の墨

完来

墨なるべく秋ふるあるは墨

舟

日あるべくと人もいとし秋の墨

五

白かるべく月の名の蝶

夕べの名のあるべくて秋ふるべ

月兼

秋のてふ集れば蝶の名の下を

午心

ひきは墨なるべの下を

秋左

秋のてふ集る蝶に秋のてふ

暁長

遊芸やきれたるこれに秋のてふ

寥松

泊清水日の月の月同じ秋の蝶

盟鴉

魂棚の栗ゐ先ゐいの字ゐ

嵐雪

魂祭

そ　夫に日月の月の月　魂祭

六窓

淋しさの盆ちゝ塔きなる留つ

岷山

夜よ入れとも新多　魂祭

吐月

故班象

極楽は此の八つの八つ多き多き

魂棚や昔偲ぶ一細〳〵もの

そもかゝる多き世や魂祭

る把すてゝ偲ぶたまむく

魂棚やそゝ打つめてもそのの家

の仏体のけ出いそゝ魂多

ば多を乱よ上ゝや魂祭

魂棚や望こ海〳〵苔る花

月見猪人の影し魂迎

魂棚や大江の棚に行 二女

いつゝれたゝふ多ゝ魂あつ

眉映 雪珊

古河 普記

大江丸

夜鬼

冰花

嵐雪

蓼太

サカミ 麥由

普成

魂棚や言訳もあり月の淺る 班象

思慮も世の道星ゝ乱り乱る 寥松

棚経や陣八宮る乱れ多 野乙

ひゝつゝさやゝ乱り迷 弁古

迷ゝ出に禁さ世者八多り 梧泉

迷出や業出皆ゝ家八子世者 三千彦

月の出多家や墓海ゝ 完来

盆前乃母はあ棚や盆の月 蓼太

盆世月多よ海いゝも氣海ぬ 大江丸

ゝつくゝや月の中多盆世人 尾張 曉堂

ひゝゝゝて盆人蛍盆の月 蓼旦

墓参

盆月

思ふ為細き浦や盃の月　班象

問ふて教へられと盃の月　山市

うお世うう者ハ宮ゆ盃ゆ月　吐月

人の為て法　掃く門や盃の月　寥松

新を古て万人お教ふれ盃の月　鬼秀

誰　記念にうた宴ん盃の月　月巣

盃ゆ月　見に来つ書法う那　響美

古てうハ思ひあ月や　生多ゆ　山幸

盃を生新家門の燈籠ゆ　嵐雪

白骨ゆ切籠燈籠や教ゆ家　完来

燈籠や故人ゆ時ゆ世ゆ屋　歌白

燈籠や三十日ハ殊ゆ　あくく

とうろうや消るも惜を人の如　沙羅

都より咲ゆ家ゆハ多き燈籠ゆ　白麻

苔ゆと家ゆ多き新の燈籠ゆ　一巣

あくくと秋を消るとうろうゆ　子供

燈籠や月ゆ光ゆ　抱ゆ　連衣

ゆうゆのつゆあき抱よ新燈籠ゆ　水衣

燈籠や生を見たるゆの家　巣太

生てうう遠寺ゆ中燈籠ゆ　吐月

巣うゆ屋敷の下ゆ燈籠の郷　年人

郷赤　後教と先生ゆ新の声　大江丸

むし

家業ふ了部の虫をきく夜かな　班象

松の枝手かけて聞つや竈の虫　菅雅

晴るの地をさ家らむしの声　春橋

むし啼や傘をさしたる者　吐月

瞬にき明細しむしの聲　指月

うかくとも雪深や虫の声　故班象

分入もはいる露やむしかきわけて思　十暁

黄菊の葉菊の声を明る枝の虫　寒松

むし一声に又夜も声もちうりかな　豪山

虫の声ゆかりもあれこゝに聞　春我

松むしや火をかき立て　圖西　普成

きりぎりす

花娘や壁にはなりてきりぎりす　花雪

冬も来て人家の家で啼よきりぎりす　東壁

啼声は花の明りやきりぎりす　菓平

蜻蛉

こゝ咲りても明ぬ夜を　蜻蛉　六恵

暁の巻けり来やきるもしき　葉詠

生まれ出て言はに隠かし世蜻蛉　吐月

きりぎりす蜻蛉を明けて明止ぬ　西急

蜻蛉池のむしき水中ハ　人左

うこて乗る日あしておきえてとんぼかな　蘿太

深て寝るまのはしめや赤蜻蛉　以栄鐘

さんみうや寄りき秋のあさぎはし　吐月

班象　菅雅
書橘
吐月
指月
故班象
十時元
寒松
豪山
春我
普成

蟋蟀

嵐雪
夷谷
素丸
素堂
吐月
西鳥
人麻呂
蓼太
素堂
吐月

踊

ぜんぼうやかうせれぬ風の笛　露松

秋風に人まねらしき踊かな　蘋台

子を持たぬ女をとりおどりかな　雪丸

踊らねば大事ぬ月夜来てけり　篤人

踊る中も今の通る浮世かな　加賀 沸心

踊るまぬ子に誘はれ盆踊　年人

踊りけるものとは見えぬ踊かな　大江丸

踊らぬ人に誘れておどりけり　陶家

相撲

角力取の寄りぬや秋のうら哀　嵐雪

和らぬ人知らやすまひとり　洛 几董

大内の御をかけや角力取　蕪村

見きりとおもふ百も何も角力取　秋色

末ら代の節まてあまれ角力とり　古壺

嵩捻ふ　毎ちのまれね角力取　千雀

掏つるぬこちの人やお撲取　吐月

投られて大きくなるまひかな　連丈

十八ときけは若しや角力とり　六窓

負て見しておれけり勝角力　其道

勝負ぬもとの古樸見れ角力取　白麻

負角力食子目ばかし十倍き　大江丸

三十かしで変るく角力とり　梧泉

気合ぬ名を聞ければ角力取　冬翠

稲妻

夏草に紅角力を森もつらん　藤村
稲妻や赤き岩を蛇渡山　吏登
いなつるや松は松なるつらくを　蓼太
稲妻や伊吹みつくき赤の湖　完来
稲妻や孫あき秋のつゆ　二上
いなつるや松のいはほの宮の猪　京雛
城の田に稲妻ひかる彩霞ぶ　故班象
約人乃ぶ雲ぶ雲ぶ雲ぶ　長梧
郭きりやふるる紅なる蓼ぶ　北董
川　雲に松るる上ぶ月ぶ　班象
郭きりやるる陳るる　小桃竹　理牛

霧

郭きりや好るる起なる墨さなる　治北董
雲ぶ月ぶ雲ぶ郭ぶ郭ぶ　完来
山きりや陳子陳るる松の吟る　蓼松
郭雲ぶ雲ぶ雲ぶ雲ぶ山郭ぶ　鶴里
郭きりや雲ぶ雲ぶ雲ぶ川の雲　翠羽
伊の雲郭雲ぶ雲ぶ雲ぶ中　吉播
紅きりや松ぶ雲ぶ雲ぶ雲ぶ　アハツ可風
雲ぶ雲ぶ雲を松ひ伊雲ぶ雲の玉　嵐雪
雲ぶ雲ぶ乃雲ぶ雲ぶ二玉川　蓼太
世三の迂世海ぶ雲ぶ雲ぶ　白麻
ぶ雲ぶ雲ぶ雲ぶ雲ぶ水乃雲　石髮

家人と洗芽を摘よ一枝りも　スルカ　梧泉
玄家でまけ　き玄ば小松原　普成

吐月
洛蝶夢
氷花
寥松
三千彦
蓼太
深松
子貞

花火

女郎花

寥松
菅雅
蓼太
菅雅
吐月
班象
嵐亭
至兆
大江丸
稲東
スルカ　亀流

蘭

而止うや屯の管おるをとゝ[illegible]
をゝ[illegible]ゝ淋きまゝにおり臣
[illegible]
こゝはもあぬも又[illegible]
蜂よりまきおるる人あるゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]月[illegible]の[illegible]自[illegible]
[illegible]の[illegible]おぬ心を[illegible]
四何[illegible]ふ[illegible]の白[illegible]
[illegible]の[illegible]廊の[illegible]
日[illegible]御[illegible]

雪松　翠見　柳沢　升古　蓼太　[illegible]峰　雪武　得魚　千慮　故班象　来之

草花

萩

[illegible]

[illegible]

松欣　蓼太　月巣　月美　巴蓼　吐月　富川　完来　雅堂　如水　吐船

萩ことゝて色ふかるゝのゝ下
ちりたに神垣ぬらす萩乃雨
深草の猟人やたゝし萩のもと
はしめ〳〵都日ゝよりや萩乃花
萩さゝやもりもの乃き　西は京下後
晩は時雨はしめやもとの宮
乃人の影さゝ萩の垣根乃
影ふかや秋乃影〳〵ゆきれて
葉や世ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
影色の葉ゝ萩さゝるの水乃
ゆゝゝゝゝや影乃秋乃ゝ

月巣　素雄　一筆坊　寥松　満良　杏扉　蒼虬　蓼太　魚没　夜兎　古調

芒穂

影乃ふ佛山乃秋乃花
葉や世ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
影乃ふ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
影乃ふ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
影乃ふ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
あさゝほやいつゝゝ秋乃紀乃ひ
影影や九夫盛に　る蛬
濃ゝ萩ゝゝ尺て葉は孫乃
影乃おや乃ふ乃和乃尺乃ゝ
葉乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
あさゝおやさゝ乃ゝ乃ゝ

完来　月雪　吉橋　秋色　月巣　吐月　雪我雪　蓼秋　加笑　希因　百里　連丈

雞頭花

西瓜

廿扇賀　蘭室
故　珊瑚　嵐電
栄斌　布泉
古カ　紅一
嵐雪
太窓
宗瑞

八朔

三日月
稲

口上のうちもこうほう西瓜の事　風宿

八月

八さくや扇さしたる小百姓　蓼太
八朔や池田伊丹は日待酒　完来
八ちくや雲ふたゝめも柳の芯　倉鼠
こゝの月やさりれたゝる海芋原　寥松
夕風も蔦も動かず稲むしろ　蓼太
千稲の鶏鳴たゝる石の原　歌白
人ゝ人ゝ傳ちゝ聞いねの芯　吐月
人ゝ稲也人ゝ往来むしろ　雪珊
雑ゝ稲ゝちかけ一ゝ　玉宇

有たり稲の中川とうなる　伯鑒

さゝ波の地もあらはにいねの秋　寥松

むつまじや稲刈蔭に子に囁く　乙児

淋しさを苅ひろまる田面ゞ　吐月

大井川とまるて戦ひいねの秋　菅雅

乱はてのひろひ稲うけ菊の木ゞ　投仏

ものゝあはれも波に浅茅山　普成

をゝり沖まなかつゝる雁　隣江

むらゝゝや風さゝふく波うゝる　喜曉

十数石ゝ時きゝ山やゝゝゝ　寥松

山の傳ゝ稲ゝ嵐せ二日月　瓦子

波雁

稲雁

木つゝきの夕日をたゝく楷ゞ　青雨

木啄鳥

木啄鳥や柳さゝゝもまはゝゝ　吐月

茅蹄をゝゝもあるあの山　千林

秋山

秋の山ゝゝゝゝゝゝゝゝ　寥松

弦ゝゝゝゝゝゝゝゝ　鷺白

杉の山ゝゝゝゝゝゝ　再甑

花野

雨ゝゝゝゝゝゝゝゝ　嵐雪

遊剥ゝ有八幡ゝゝゝ　蓼太

ひとゝゝゝゝゝゝゝゝ　吐月

眸ゝゝゝゝゝゝゝゝ　宜麥

桔梗ゝゝ指折ゝゝゝ　卜水

[illegible]

文足
月巣
月兼
寥松
人充
柳美
節句
蓼太
吐月
班象
完来

新蕎麦

[illegible]

蓼太
文足
雷堂
芳里
三鴿
魚汶
梅堂
五桂
寥松
百里

秋水

新蕎麦や吹き出す水の音
新蕎麦や西の八月十五日
骨折て移の沉く秋の水
刺刀にあふてきらめく秋の水
五尺岩のとるさよ秋の水
滝を御　沖中川やたの出の秋
横の潜りぬけ秋の水
矢を負ふて流れ秋の水
白雲を養ふ秋の水
手綱の[illegible]や秋の草

葛

くゝみせて俳しき葛は心ゝ　蓼太

弱牽

弱牽や日やけて甲斐の黒男　蓼太

鵙

我和もひきつくろふ弱逆　三思

鵙鳴や枝伸れば行り新　仙菓

竹春

竹春や鳴ぬ梅も咲の雲　葛更

秋雨

秋の雨見の面ゝ八隅有の郭　蓼太

作雨きて経の書や妹の面　方壺

秋雨や子の建四ゝ子は夢　寥松

蕃椒

きれよりりよのタ日や秋の雨　泉布

秋雨やちきく鳴しやうの山　漁舟

ひきのふるこんこんしてふる　素迪

作蝶は楽屋おろしの夜ふけ　蓼太

皆深てきれゝ雨ふる庵幸子　すゝ女

はつるふる新せれ夜ふけ　太江丸

一畠人おろしやなこのゝ　ゝ窓

こゝやれそひつ庵すや蕃椒　公

うつゝ

新きりて下むせひて哭新　蓼太

秋きれ首ちゝやるゝ　敬我

哭も秋ハせハしきゝうゝの郭　土口月

くさくけのそらあはふも　鶏ゝ　祇ト
時うつる　橋本をきて　秋の海　白酔
波先はつうつあはふも　鶏ゝ　乙児

秋風

秋の風　義浪の　肩かつぐ　吏登
あき風や　おあ　波あに　高帆　行帆　吐月
笄乃　みよ　秋風　うつる　橋　京ゝ　馬勃
秋風や　松ふも　富の　ふとおもて　出羽　投茶
賜は　波　きよ　ゆれ　秋の風　心祇
猪　垣　さい　樋　振ゝ　あ　ゆ　風　寥松
人　ふ　ゆ　深　ふ　の　清　や　秋　ゆ　ふ　の　せ　楚岸

ゆ　ゆ　く　ゆ　秋　を　う　川　深　や　秋　の　風　蓼阿
弦　おて　帆　の　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　秋　ゆ　風　完来
秋　風　や　松　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　午吹
秋　風　や　日　ふ　向　ゆ　砂　川　京　素迪
み　ま　ま　や　富　ま　ま　ま　る　秋　の　風　梅人
あ　ま　風　ふ　一　筋　き　れ　る　機　ゆ　糸　虚舟
ゆ　き　風　や　柱　ま　ま　ま　ま　走　ま　ま　深松
ゆ　る　歯　ゆ　糸　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　秋　の　風　故流
急　ゆ　ゆ　は　波　ま　ま　ま　ま　秋　ゆ　風　馬耳
秋　風　ゆ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　久能　雁赤
ゆ　き　風　ゆ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　竹石

桃祖　天府
雪貫　蓼太
螢布　仝
普成
老阿

人

鳴

小鰯引

放生會

初汐

大江丸
吐月
一臥
秋色
由岐年
宜麥
寥松
玉庖
至兆
菅雅
田巢

待雪

月

まつ雪や行てをそるゝ人しる
待雪や桑の木の葉の縁の霜　故班象
まつよひやそゝ雪なくゝ懸の月　阿人
待雪や行てをそ一ぱに月乃了　吐月
まつ雪やいくゝ掃ても跡屑　午心
まつ雪や鉢ふりつけて篠の霜　麥雨
名月や柿の枝をそゝ吹く　嵐雪
明月やきゝ違り水や上　仝
名月や枝柿ゝるゝやをそゝ　吏登

明月やそゝろはゝる秋のそら
名月や生れぬゝはゝる乃松　仝
明月や沒よたゝゝふあきれ　蓼太
明月や高き岩ゝる老もち　宜変
名月や四方ゝ松の月　沙羅
名月や峯八景の秋日和　深松
明月やくゝ雲もれ月の月　歌白
名月やゝ雨ぬゝつの雲の月　普成
明月や岩流ゝ流ゝ　月巣
名月ゝ流ゝ　六窓
名月や流ゝ　方壺
名月やきゝ　文足

明月や雲くぐるまで代くのもあるじ　婆城

名月や沖よ来橋新酒出す　月巣

名月やくらす宵盛りおはり　吐月

明月やナニヲ月清の舞　魚汶

明月や橋をとるまで秋の雲　宜変

名月や時ならの後の雲ぞ　午心

名月や明きまでこの来ぬ　故班象

明月や大郎をまる清の夢　普成

明月や闇ならぬ格の春　祇川

めい月や松まるつ雲ぞ　蒼狐

名月や焼を消ぬ風かつより　蓼太

中秋や日安くまて月却る　文太

明月やいつこれ闇に人の春　魚汶

名月や老よ森を埃ぬ　蓼太

明月や老ハのこれぬ月ぬし　嘉好

いき碑ぞ三つ四つ尺ぬ月　月守

ふれ月人の西をくるべ　寥松

捨子浮世ぞ屋ぬ月　吐月

明の名ものくり雲ぬ月　大江

隈ぬよ九秋の雛こりふ月　司九

秋の月は八月よりまさるなれども
ひろくたかくはれわたる月は秋の月
なれば大名高家月見の人合羽籠
持ちつれて出あるきぶの月
一輪の月に引られて乙女の汐
くみ出はかりの面白ぶり月
出るもむしろ今宵の月の秋
月の名所は大小秋の月の
都なれば月も名所にまされる秋の月
面白き月もまた名所にて
世のなかをなぐさむ月見ぶり

寥松
馬耳
月巣
吐月
青稲
文母
求光
沙羅
蛟牛
菅雅
楚岸

十五夜

月

山もまさるべき秋の月は
なるべしとかたるまのく
いさ宵の間ばかりにかゝる花の
ナニ夜やきのふ此宵を
ナニ夜やきのふ此宵を
いさ宵やきのふの月をう
ふ川〳〵二里は休らや宵すき
峠の茶屋中の湯さくる月
花はきゝあるはのくとはふる
すゝふ八月かはらるゝ
月秋の流るゝ

完来
白騎
蓼太
吐月
金鵞
故
班象
嵐雪
仝
吏登
青牛
馬光

[illegible]

長梧

吐月　寥松　魚汝　栟翠　素夕　蓮佐　大江丸　葉光　春烏　名雄播

秋日

野分

[illegible]

蓼太　蒼虬　故六　牛晡　午心　千林　寥松　故六　玉桂　艸阜　蓼太

明烏行羽よりくるぜんを来
而打〳〵ぜんを飛て降打ぶ
吹打て游の木伝ふぜんぶ
今野ぶれたる来ふ伏家のぜんぶ
大佛を見りてあるぜんぶ
人ん地つくやぜんの清新つ
抽ぜん来色を蓋ぜんぶ
蓋井の実に吹あるぜんぶ
人出んよやもえの立るかしぶ
蓋ぜんあるもぶき蓋ぶ
今ぜんぶるんぶ

月守
文牛
白麻
吐月
ヨハリ蝶羅
故班象
文宋
木芝
蓼太
宿兎
六窓

案山子

おもいぶ乃橋今立るかしぶ
百姓よりハるりて蓋山子ぶ
雪降きし後ぶてかしあ那
夕雪のはんぶ所ぶ古かし
不細工ぜいく〳〵淋しるを
國両ぶぬるり中よき蓋山子ぶ
降来を蓋来てあるぶ引来
加茂川の水青垂よかしぶ南
面ぜぶを降ぶ部あるあしぶ
十日ぶ立てぶれた蓋山子哉
秋風のあるし姿よかしあ来

完来
年人
暮山
甚虫
杉茂
月菓
吐月
風宜
采汁
橋友
亜清

唐子

板をこあて造りたくきかしをの〻田八賣て麦〻田ちを
擂ぬけの丸にうあたる唐子ちを
引ひけて板の月板や唐子の縄
家の丸に使て家ちを唐子ぶ
五十ぬ〻上ゑ丸ちる丸唐子引
索麦ぶ数七ひ〻ん唐子縄
曳てやをふちひ〻を唐子
面板〻板末の唐子実えひを
唐子引〻丸に面〻やも〻者
家ひを〻つを丸ひを〻唐子ぶ

雪篠　菓子
吐月　吏登
菓子　毒外
吐月　平人
梅仙　雪麦
唐口　吐月

添水

秋風ぶ〻を切〻〻添水〻角
添ふ〻ふ〻拾〻きて水の引ぶ
引板添〻周ふ眼の〻ひる雪哉

鹿

鶏きを板アふ〻ひ〻ひ〻花の寄
〻れふぬの糸〻あれきけ麻の寄
花きけを弾きを〻古ふ〻ぶ如ぶ　エン良
麻笛を郁の人に使ぶ板の郁
寄や金を笛を笛〻唐乃花
鹿笛ぶ麻よこ〻れ〻〻云寄
ひ〻ち〻白云〻よ〻れ〻七峰の麻
吹ぶ〻る高〻月や花乃峰　上ケ

菓子
吐月
菓子
金井
周竹
言麦
月菓
射集

松山やまを中より雁の聲
秋〻ふかなる本ゝ雁乃聲
戸をさしてを遠山をせん雁の声 スルガ
荻の葉うしろたゝくまで月乃雨 仝
小男荻や雨〻ふれて宮夕日山
蛩〻月来て急きをしへ殿ぬ寿
汐ゆく人さへ笑らし雁ゑ笛
清射山の月見て雁の四季ゆ
雁ぬ寿や月乃ゆ榻も消人ゑ寺
嘴よハる雁の牙をゝつ木の根ゆ
急せ乃ハ木の陰ゆん雁ぬ角

蓼太
簀丈
郎娥
栽月
歌白
月巣
洗水
完来
石髪
寥松
吐月

鴈

然しきにをゝめて入ぬ雁の山
荻ぬ寿や京〻一里と只ハきし
風ぬ寿ぬ寿ゆゝ乃雁
小雁きく岩ハ紫禁く蛩ゆ

いつの乃に来て陸る子を小田ゆ
二羽くゝかゝ〻ゝ船一ゆゝ
ゆをゝる沈ハ田ゆゝ乃ゆを
をゝれてや月ぬ中ゆ一羽
遠山を今を知をゝ小田乃原
さ乃ゝ世画ゑゝ炎ゑや乃ぬ

莎笛
蝶蕪
雷光
牧人

吏登
蓼太
青逢
星人
吐月
蓼

[illegible]　蓼太
[illegible]　洗耳
[illegible]　雪堂
[illegible]　京花
[illegible]　嗽石
[illegible]　稲牛
[illegible]　班象
[illegible]　信中　柳荘
[illegible]　寥松
[illegible]　撫琴
[illegible]　午心

[illegible]　双鳧
[illegible]　牛毛
[illegible]　歓き
[illegible]　可月
[illegible]　都重
[illegible]　蓼太
[illegible]　錦衣
[illegible]　是物
[illegible]　吐月

鶺鴒

きぬ為

[illegible]

衣うつ陸遠信乃女の那
風より、おとろきやすき砧ぶ　完来
ふくとき取てたりぬ小衣砧　子爻
里人の温泉に来て後や小衣砧　夜兎
黒髪は彫くたるきぬこぶ　午心
峰つきの里とありたる砧ぶ　文足
ふるくらんの月のかしら衣　不騫
毋乃砧をはいぶめくなれ　寥松
近きより歩ぶりの小衣砧　蚊牛
童里は都よりきて砧ぶ　其由
笠よりしら年波よせる砧ぶ　蓼太
仝

松に月尾上乃砧ぶ　虛舟
捧やむ小砧ぶ　文足
やまれて月ぶ笠小衣砧　露澄
有りて砧の衣ぶ衣ぶ　不騫
うちなけて浅月ぶ衣ぶ　達琴
ぶ衣乃木のうしろ小衣砧　歌白
笠に木をよる森て近し小衣砧　木丈
ぶ住む梁のもやし小衣きぬ　普成
衣乃花森笠の里ぶさよ砧　月巣
うち衣乃ほこせぶ衣ぶ　吐月
ひとり住ぶ乃ぶ衣ぶ　菅雅

つゝ[illegible]おとよはたゝ　一月の英　方壺
うつゝなきこゝろぶかしき碁の事　吐月
烏瓜　ゆきをぬもかくてを休しうゝ瓜　蓼太
はゝ[illegible]と拾ひうゝかすゝ瓜　郎娥
雪瓜あるゝ仏せて泳めゝう　寥松
逢しまた拾ゝ作ゝゝうゝ瓜　完来
鱸　経力に鱠成つくる出遊ゝ　仝
帰燕　郭ゝ[illegible]ゝくゝゝゝ拾ゝ燕ゝ　寥松
芦穂　芦の穂よゝゝも紅湯ゝ煙ゝ　班象

秋蝉　秋の蝉をの主を殺す言ゝ　年心

九月

秋夜　秋の夜や我ゝゝゝ[illegible]入　湖雀
秋夜　あきゝ夜や河つゝゝゝゝ　十三夜　風竹
秋夜　ゝゝ夜や森ゝゝ[illegible]老の波いゝつ　蓼太
ゝゝゝ夜やゝゝ夜ゝ[illegible]　一警
後の世乃ゝを夜ふ夜ゝこの[illegible]　湖象
山ゝゝ枝ふゝゝゝ夜ゝゝ　活　蓼村
ゝゝ夜の後ひゝく濃この夜　丈河
ゝゝ夜や起て酒ゝ老ゝ妻　仙ゝ[illegible]
色ゝぬ松　ふんゝ[illegible]ゝゝゝゝ岸ゝ松　蓼太

桃鏡
松俊
蓼太
吐月
嵐雪
寥松
了浦
嵐雪
吏登

新綿
新酒
菊

月守
人左
方壺
雪珊
阿人
沙羅
一兆
一鷺
月巣
了浦

別仙よくさ葉み吸葉の流れ
かーおとゆ子もつきたきくの花
ゑきくやゑきを深る秋もホー
り先よ竹一ゑの友や葉のもホ
ちくきくやゑ葉よ色変もつくりん
地をあしたゆ風ちへめりりゑ葉のを
育ちもあれも葉ゆあるしホ
裏の葉に秋ちるゑきくゆを
ちゑ次も葉月もひちりゑ葉の花
きくの変ゆ明れも古き 砂糖
ゑきくやちゑ色ゆ風ふさけとを

人左
月巣
文母
百貢
鬼秀
鷺川
兎洲
千牛
頓吾
雪萬
虚舟

葉咲てこくく其一苦陸み
きくいろくもよ色に底りり
明くくれく小松ゆ中ゆ葉ホ
捨咲の葉よ変ハちりりを
旅ちぬ人の好ちゑ葉ゆ変
りゑ葉よ仙屋溜乃色ゆ邪
詩をつくれ妻おりきくゆ花
咲てりゑ月日ハ速くきく畑
ちも姐一揚ゆ葉の上よ河り
白葉の色み出るよて惜くりり
砂多き砂くりり菊ゆ宿

班象
宜変
寒松
山松
夷門
百里
周竹
鳥酔
大江丸
北魚
完来

き〻咲や客り燈の窓さら海　路鳥雪

芭蕉

落水

蓼太
蝶夢
文足
草石
午心
普成
三思
蓼太
青橘

月の白い見せも閑と蓼しの
蓼し水見ゑて枕もかるふきぬ
吹打ぬの木を投棒や蓼しの
茸かりや思い衣ハ侍門路
多事物や行くるかる小松原
茸うりやひきもけるハ花すき
たけうりや家山人をする西ゝ原
茸物や人の話り人さらく行
神ゝ〻てくる蛸の山や茸物
ひうり旅法棒吹ふる人ハ法
志物棒ゝ志用る秋を送りり

月巣
秋杵
志ゝ
吏登
義玉
女須美
イセツ銀佛
吐月
夜兎
嵐雪
吏竜

柿

栗

迷宮

秋雛

紅葉

雪守　蓼太
二柳　嵐雪
月守　午心
月窓　沙羅
雪漁　午心

花調

雪守　蓼太
子真　沙羅
山幸　春蟻
普成　故流
得魚　歌白

海棠より迄枝ぶるまもみちば
妻木つゝ星人ちきもちゝ郡
法外いつゝれてやあるまゝ
形ゝ色さゝおれをつもちゝ
をみち紫やしろめざにゝ入ゝに
初をみち色よきみの迄ゝば
うゝ数て日の暮るもゝちゝ
侍門ゝる人さゝえをし先ちゝ
砂ちゝも構ゝもゝ落もちゝ
ををみち照やゆふゝ暮さ数
細ゝよ数子に門や落ゝ葉

一流香
白麻
姿心
深松
富屋
山幸
完来
宜麦
葉松
意長
卜水

ナニ板

さゝ紙

もれとも色しゝとをみちば
橋河ゝてあちゝ川やゝ葉
ばもゝ係るさゝりををみち
をれる時ゝ葉の中ゝ葉ば
おさゝをゝ遠通をみちば
河ゝをの土よ照ゝ色ちゝ郡
あちゝも紙さゝりゝ山星を
かいゝきも時ゝや紙の下をみち
紙はゝ深ゝて小ゝ山ゝゝ
葉紙や日ふゝあゝをを深ゝ
川ゝや水ゝ川ゝて后の月

吐月
年心
枝虫
夜鬼
大江丸
沙羅
嵐雪
天庵
山松
子代女
葉夫

待ぬし月の光しすこ板　月巣
かて吸ふ水やこほるん后月　吐月
ふるくふるくふる秋や落の月　宗来
后の月よりはなれ夕を鶏ふる　普成
客ふるくふるくふる月はなれ　点花
ひとりきはなれ八日菊ふる後の月　沖雨
宮腐屋のはなれ房はなれ後の月　蓼松
抜てふる客きふるはき后はな月　東門
下戸へ来る扇の風や后の月　花明
懶つぬ心よ独行のちはな月　蓼太
月さへも花きふるすこ板　不鷹

柚味噌

秋霜

夜寒

柚すすふる様彫ふる后の月　普成
稲ふみて里彫ふしのちはな月　蓼太
板行ふしやはなの柚味噌ふ柿ふる　仝
柿の心彫ふる柚みて那　普成
柚みふや淋しふぬ友よふる　歌女
秋霜や蕨の中ふる月ふかふ　寒松
つくつくと独をり人や秋の雨　北阜
四十ふる風のふる小板寒ふ　蓼太
細布は里ふふて板さむふ那　人左
冨士ふふ国に聳へて板寒ふ　萬鈴
ふふに灰ふる柿見の板寒ふ　普成

末ふ、まよ芋大の板をく
洞樋を筧乃ろ〻ま板をの
滝の水と樊火けろる板をく
り焼く煙の森に寄る板をう
糊をれを寄時て板さむ小
森く神子をれさしてる板を
戻月に芋大をて板をの
大板の風味さしまる板をく
面漏方尾焼よりる板を節
板をきや手面る樊乃ロ十一
行濃は搦ハぬ葉も板をく小

蓼太
完来
亀二
吐月
三駱
夷門
時中
五明
寥松
五柏
晋成

末枯

末枯や月はあれなる日の行れ
う〻枯や峯のく原ふ〻る海
末枯や〻れ〻ほ〻ら〻茶毬
〻〻れやな〻〻日を乃志咲の山
末〻れやとこ茶つ〻き花恋京
末枯やか〻き貝乃つる流の木
〻〻枯や鳥れむ〻る松の皮
尾の秋咲こ〻ッを寄乃ろ
ゆ〻〻ぬ〻ぬ〻るの〻て浦乃秋
秋の淫ん〻の〻麻よ〻ゆ〻き〻
風小よ〻〻て秋の月隅の郷

蓼太
吐月
千心
京花
木奴
蕪村
珠月
吏登
班象
春巍
秋宛

新秋

ト入ル七月也追テ可改

つと入　蓼房　竹阿　志芝

木賊　蕪村　五明　乙二　嵐雪　蓼太

菜萸　秋夕　山雪　菜萸を吟ずる烏帽子　奥羽　乙二　嵐雪　蓼太

秋夕　秋の雲　秋の夕　秋の雲　秋の夕　秋の雲　秋の夕　秋の雲　秋の夕

秋の雲　沼雪ほのぼのと明ぬ　婆心

こちら向に立ぬ小ぶ　秋の雲　蕪村

老ぬるよ　お女郎　秋の夕　班石

弱ぬれば　月の雲　月嘯

立おてる尺の雲あきの夕　水鶏

見る人の　あきの夕　伊達　竹富

もてこい　山も色し　秋の雲　蓼太

魚をうて　釜を立る　秋の夕　拾翠

刀帯て　庭掃く　人やあるの雲　木羽

浦の浦　人ぬ　一ぬきれる　イセノ　雁路

入おを　つくるふ　秋の雲　午心

秋の月石山寺の清月　嵐雪
道問へは一里くとあきの雲　蓼太
清つきにいつれ下まち秋の月　魯洲
秋の月女房のほろろ尺ばかり　冰花
何ぞ物語る尺に秋の人も　月巣
夕雲て秋来る松ゆゑ　吐月
門さして俗の角力やあきの夕　秋良
見えの雲ふる秋の月　蓼主
ふけ行あき風こゆる秋乃夕　長崎　天社庵
秋の夕死して弓張ハ女郎　寥松
角力とる友達ゆる秋の雲　故班象

武蔵の国くゝ淋し　秋乃夕　天府
秋の月れ梅乃枯葉ゆ襟ゆちる　月彦
あおゆ夕みゝ見ゆ借て庵ゆ　眠石
神物ゝ多れ三ゆ秋の月れ　月窓
ほゝゝゝゆ四ゆ三やあきゆ雲　赤岩　帰景
雑魚ゆ釣ゆ郭ゆ秋の夕　故六
郭ゝゆ見ゆ紀ゝ三ゆあきゆ月れ　普成
行廊人まつ琴や秋雲夕　信夫
紫陽花乃雲ゆのこゆき秋の夕　菅雅
枝虫てゆてゆきあきの夕ゆ　蓼太

行秋

中秋や連立おいて[illegible]も　吏登
り秋は落ちるに任せけり　不鷲
秋せもしをしをしたる雲の
中嶽や赤田潜て山ひろり
り秋やくもはもむしろ
秋や雲のひろり菜大根
り秋にみるもおろし蓑　椒
中秋やひろしを通る秋の白ひ
秋拾ひ秋ちりしを上川
秋却む拾ふ秋ふる鱠の宮
時の通りて秋のり赤の南

叶月
竹條
歌白
富屋
桃壺
南羅
庭兎
汀雨
翠兄

九月盡

[illegible]て門ふる人や蕎の秋
[illegible]や秋来の影よ秋を中く
秋[illegible]を袋屋へ秋の月赤小
市稜せ一川[illegible]九月を
秋ふ阮のひ[illegible]秋ふ九月屋
夕[illegible]を集て九月海日の形
何号ふ人て九月三十日秋
油行の[illegible]きしあ九月
[illegible]ふ[illegible]ぬ都の九月を

桜道
素迪
乙児
連丈
桃祖
木羽
素迪
丈河
完素

發句類取水　冬部

青顧廬了補編輯
八朶園寥松刪定

十月

初冬

初冬の横ゝ入るやきりはたゝ　蓼太

時雨

のくつけゝ日の暮ゝ時雨かな　吏登
植ゑゝ松もあれゝや初しぐれ　蓼太
菜をとゝふ菜に暮ゝ時雨かな　吐月
又さゝら蓑も田七ゝ初しぐれ　乙児
夕暮ゝ別しぐれ時雨かな　沙羅
二ゝも比しぐれ竹乃月　日宇

いろ〳〵の時雨もたゝぬ松
時雨来て又もたゝぬ夕の那
きゝ〳〵て冨士を仰ぐ初時雨
見よもたゝぬ所を世初しれ
降てめて松をたゝぬ時雨小 上サ
時雨さへ淋しとせしれ小
蓑笠のおゝ時雨の那
初しぐれ時雨降る松小〳〵 下サ
笠に降きる雨も漏ぬ時雨の
色も雨もたゝぬ松ぬ時雨
降て傳へ時雨の入日雨

宇平 完来
大江丸
午心
仙菓
雨老
寒松
菊盤
蓼太
故班象
蒔笠

寿州
波光
連太
也有
逸賀
文鱗
六窓
文交
吐月
銀耳
成義

小雨に家の時雨〳〵の時雨
傘ぬ下へ日の漏し〳〵れ
夕雨に降て冨士の時雨
初しぐれ人さへ〳〵し人雨
新の時の人おもよりの時雨
松雨やたゝれ〳〵のいく〳〵
やう〳〵本ぬ〳〵し初しぐれ
お花やいつく〳〵て月時雨
見きり〳〵人〳〵るたゝれ
小春日つ時雨川雨降る雨
時〳〵や雨たゝきき〳〵日

西山を望むかのごとく降る雪の山川
のかたちのいとゆかしき花をもつ時の面
影をうつしたるかのごとく
何人の赤白炉をかかしたれか
紫いとうち伏するかのごとく時の面の
枝のまろかにかたちてしたれる
あるいは時の面にて沈むかのごとく
鶯笠は立ち昔入りしたれか
しかるにひとつの味にて
なるべきを心をかけつたれ
いとけなくうちとけたるかのごとく

川上氏
不白
月巣
眉山
蕣太
敏牛
諸物
玉牙
蓮伝
素迪
四明
射隼

冬の日

菊雅
柳如
葉太
更葉
少葉
沙南
柳紫
菅雅
梅堂
蓼太
夢後

枝の実の赤きかたちかのごとく
しかるにやとのもとにて人人
は公は奏らかぬるもつしきを
冬のりやかりかりをかへ
冬は日の枝たつねて今は
冬のりやかりをかへ
冬は日の新てもかへ
冬はつかのこ冬のりかへ
面のりやかりかへてりをかへ
冬は日の新をかへ冬はつかのこ
冬のりの枝のかりかへ

亥猪

第二外小秋ヶ宿の表の子ハ　勤参太

口上のうゝきよゝ表ばかり　吐月

麦藁

前のかる蕎ひとつ出やもたゞ素　合

麦藁ひとつに席を惜れぬ子も一人　完来

口切

口きりや海苔は價も彦海　蘂太

口切やあの何ふくる二葉ふくろ　吐月

口きりや東ろ都なる家の風　素丸

くちきりやけふぞ世を出も味ふ　元素

口きりや此ふくろ箕も庵山ふく　蘂之

口切や猪子八尺の尼料理　陶薫

炉開

炉つ開やさあくるゝ猪のちる残　吏雲

炉ひらきや理屈ぬけたる心かな　吐月

炉を開て客待ふりしたりけり　蝶叢

巨燵

樵木ハ道で逢ひし巨燵かな　蘂太

東山を夜て心の暖まるこたつかな　吐月

山寺は炬燵なし老て慕ふ巨燵かな　大江丸

憂き事を愚痴の家に語りつゝ家　深丘

せつなさハしかたに家のこたつの家　故梅堂

おも世にもて来りし年もなくて川　玉涼

御座敷に炬燵ありしたきこたつかな　鳳雪

伸をしなから待つ巨燵の家　千牛

火桶

踏抑て医者のあたりにこたつかな　羅川

猫いつか入て四臘のこたつかな　時

子ら孫の世になりしものを巨燵かな　吐月

一条征矢飛よりてこたつかな　定可

君か代は祝ひても見る巨燵かな　月

あさいりを宮なかつるの巨燵かな　宗

みてなもや吹蘆て孫と子らの　了

絹きせきまる尾減るこたつかな　素

こかれぬる客女の中に火桶かな　蘂

をとつぬくや火桶に洗し舞扇　二

ゑらくて操つた桐火桶　杜月

おもすの撚て居るに火桶かな　頼賀

婢も行手かけたる火桶かな　吐月

僧正も乗ヨ旅て火桶かな　仙衣

むつましき世やと火桶を抱けり　文母

日のにじる詩吟を洩し桐火桶　筆雪

よき名は彫まて絵や桐火桶　文足

君か手もにさかるときり火桶　呉春

穏子詠吟て火をかけるかな　午心

うき人は捨られし火桶かな　味月

後家ありて嵐は山の大路かな　大江丸

人それいなて実けり桐火桶　春蹊

月雪
金竜
故
砌象
百里
園阿
人左
藥左
世月
藥牛
遠牛
木奴

庭掃き立て炭すなわち大法師
鉢毎に朝りしきた法師
つつ大や庭よ心の古友古
埋火
埋火や冬たつるぬつ罠
つつ大や冬ぬんけ炭ひつ
埋火や俳諧ふ冬てしか
炭
炭ぬ炭を炭を砕く書
炭竈や冬も祈りてうまの松
炭を冬ぬつを林一炭乃枝
炭山木や又墓ひちと砕く炭
白炭や冬ぬを後の炭へ

炭を冬て折ふを里へ炭ふ
ね炭や板を影つみひん
枝炭や炭ふおもつて茶の角
俳諧の炭ふ松むを冬との形
炭かふ冬ーて冬ぬ冬の炭
炭を冬ふ流ふ冬のすれふ
炭の大や森冬の墓城摂摂ん
冬ん冬ん冬ん摂ふ冬ぬや冬ふ
冬ひふつは冬ふふさよ 紙食
きふふを冬すふふる食ひ
冬ふふふを冬ふふふ紙ふ冬

布団
合衣

完来
巴人
宜麦
年心
寥松
宗来
麦雑
炭書
藥太
東人
風宿

足袋
小春

あさけなき宿ともなしに紙衾　羨魚

老ぬれは寒く衾の角　文之

我に暑からぬ衾も夏ものの　窓松

なをあて心えせぬ紙衾　来之

うち着せて物語りけり紙衾　善鉄

ふと寝て気負ひ忍むふとんかな　社月

古足袋の底すれに足跡の道ぬ　嵐雪

山谷に樵夫の笑ふ小春の野　葉太

風もなき浦の苫屋の小春かな　珊象

時々まるく小春の下駄　嶋月

物いひし人ののとかし小春かな　此君

捜りけて見るも小春をけしの舟　霜範

有明て月も小春の雲日かな　一謌

橋さへ夕日はやねの小春かな　吐月

二日屋に日陽て小春の野　年心

枝落せ鳥も落ちたる小春かな　鈴松

小春せやかりそめなれど春の窓　月喜

植木屋の垣に日暮る小春かな　志丈

りんとして花の小はるの宿　潮雪

石蕗花
枇杷花
山茶花

淋しさの眼のりうこや石蕗の花　葉太

枇杷の花かけ葉も匂ふ男かな　梅仙

つましくも山茶花に実のある事　吐月

山茶花や垣のはづれの花の巷
さんちや一ぱん咲てこそ忘
れりいふも山茶花八冬木ド
遠ヶ見や廓然たる茶大根
きゝ見やゆゆしき庭茶もしより
遠ヶ見や壁に船のある破寺
遠ヶ見や人ゝ乃ち五月雨
我恋を深くにあるる十夜ド
京ちゑの十夜を制てもゆる
十夜ゆ安ある見とおもひけり カツサ
文牛
吉生はあのゝこゝるき十夜ゆ カツ川
阿郎

年人
多ゐ
茶大
茶大
吐月
冬来
年心
茶大
文呂
一蹲
冬来
菅雅
菊多

達ヶ忌

十夜

市人命講
夷講

吐月

吹の風冬枯たる十夜ド

市人命講ゆあ房ゆ初ゆと掛ける カツサ
ふゆとして紙衣ゆ枯る夷講
夷講賀の上ヶを乞付る
ふゝ掛む仇のゆきよ夷講
夷講海苔ゆ骨にあり
掛ゆ名のゆふゝや夷講
乞八屋の棕櫚ゆ市百越
市ゝ蛾孫ゆ大型ゆ世ド
妻ゝゝ ゆゆゆゆゆゆゆゆ冬牡丹

市百越

冬牡丹

帰花

宜麥　蓼太
魚汝　班象
人左　加石
桃壷　吐月
完来　棄松
子人

落葉

了浦　子真　管城　杉雨　来也　蓼太
吏登　遥知　巴丘　吐月　豪山

風

狐火の焚ちらしたる篝哉　故蹴象

山間を吹合せたる夕篝哉　北果カウサ

都人に袖さしつる篝哉　至北

一日乃風迷ひ篝哉　完来

篝薬掻沖名性を傳ひ　蒲釜

木々に槽の樹乃名残り　嵐雪

風や絡ん尺えぬ篝哉　吏登

木々や瀬田切れ月ひろう　藁太

こゝや水も氣ぬ月　蕚雄

木々や去る咎入るいさり松　吐月

風や風ふる月のお宿　楚狂

枯野

木々や乃咎ゑめて小時　菊雅

風の樹乃枯る何ふる日ふる　家松

角門の風ふる風日ふ　祇川

こゝや五松ひろ岸を漕　巴明

木々のもくもる山の寄　秋丈

風や何ぞ世ふる帆乃松　蕚太

こゝや風て大ふる宮山下サ　都本

風乃樹ふる月松ふ邪廣　柏庭

ふるこゝや公松の上る岡の寄大サカミ　南山

紛米は松見て、おり枯れ　吐月

人通ふおもいの分は枯れ南　蓼太

芋枯や荒よりしき盲　る　其風
人乃禁く大とハ思ハ〜枯れ尓系　タナノラ　燕梁
ゆうゝき日の河ゝ〜ゝ枯れ系　秋杵
冬枯や風ゝゝさ面よ峰の月　仙菓
蔦を搖　枯の〜里大人面るゝく　一貫
枯〜て世を久蔦も加ゝ〜ゝ星　月菓
三日月及ゝ〜たる枯れ小　吐月
牛の尾乃郊を渉ぬ枯れ小　藜太
今ゝ加ふ言ゝ行ゝ〜枯れ与　寥松
き〜と云ふあり枯のは〜　周幸
月新の我よきゝふ枯れ小　志碩

冬野

淋〜さに踏進ゝ枯れ与　松成
人ひゝ〜尺分て咲ゝ〜れの系　雷堂
一里ゝ〜面よ遠ゝ〜枯れ系　午心
天鈴の空嘯ゝ中る枯れ与　ゝち表
も咲ゝる時系拙ひゝふ枯ゝ小　嘯長
日の河ゝる傘ゝ枯れ与　嵐雨
淋〜さの果ゝ枯れ〜ゝ〜ゝ　篤甫
百姓の空枯て末て枯れの系　可貞
丹頂乃人参拙を枯れ小　河翠
牛の子ゝ歩ゝ枯れ与　祇州
参ゝ枯れゝ咲ひゝ川ゝ枯れ上　吏登

冬枯

お荘の孔雀なあれし冬枯に　沙窓

伐たるハなき木残り冬枯に　窯松

冬枯や露に何つゝる田三反　青岡

ふゐ枯や日和新たな橋柱　轍之

冬枯や轡の跡のつく山　満良

寒

鵰乃いりも寒さ何しらぬ　吏登

天の川流るゝぬき寒さかな　月守

り燐に薪割る部の寒さかな　班象

寒さ松や人に慣るゝけり　玉水

家ありと寒さしや山の陰　乙二

連のかへり寒さなりけるさむさかな　蘭秀

榾

梅暮に皆むかしれ寒さかな　了輔

榾に捨て不れたち皆紅蘿ぞ　窯松

榾の火や君在ねむ山刀　巣水

埋木に病る松明の榾火かな　蓼助

我門と三るの名くし榾明り　左株

新明や深みにも残る榾の灰　鳥兆

鰒

十月を鰒喰自ところれおかん　月巣

智老福者や入りけり鰒汁　大江丸

鰒くふや鰒のあい日ハ風はなり　吐月

鰒くけやらかへる名の友斗り　辛心

鰒けや人になろハぬ鰒くもの　但東

在臭引

散紅葉

細代字

大江丸　氷花　定来　夢太　春江　吐月　菊美　夢太　大江丸　定来　雪定

紙子も佛も赤もちりはて
ぬめりまでおぼえの大はきをひび
三井の陰宇てのりはおぼえ臭引
をたたく門のかりやあもちち
帆代よ百年ちりも追尾ぶ
かく陰てかハ光さよちる百年
奏石ハ孤はは中こちりもちち
世ひりの大つれ〳〵や細代字
こきさ〳〵ふ人ハいりを細代字
世の中はるは俗〳〵人元細代字
さ〳〵ハ判るんてもあ〳〵ち字

中〳〵よ　唖ルかこしあ〳〵ろもを
世ばらしと思ひても思細代字
渦挑ろ〳〵思陰をあろかりろ字
さ〳〵ふ〳〵のよもて考ろ細代字
洩月ふ筆ろて居やかろ字
あ〳〵ろ本やろ〳〵ろ〳〵朽ろ字
思ろよ如ふ〳〵よいろ〳〵茸の掬
茸茸陰明智〳〵毒の百ふふ
屋和尼のちまろ陰〳〵きふ陰
御陰の歯は遠通る男ろ邪
ちのひ〳〵ちの〳〵ふ陰中ろ字

茸九　情東　大原　不知　吐月　葉松　嵐字　御屋　年心　葉太　ふ茸

茸茸漬

伺さつけ

頭巾

冬籠

蓼太　蕪村　對賀　金井　蓼太　六窓　吐月　完来　蓼松　青牛　月泉

北阜　商成　之子　桂泉　雪珊　普成　其夕　月居　秋持　師心　文足

千鳥

我ゆえに鳴くらんかたぶくまでに
をしなべて月さえわたる夜もすがら
ちどりなく江のあけぼのの川風に
をしきものは浦をしぶ
流るるや盆の水なくて川ぞ多き
月ぞしるしなみのうの滝
ふるさとの松をいとはぬ山
ゆふまぐれ波のうらなみ川ぞ多き
遥かにみてぞ思ひ出づる
川ぞやなくおのれ鳴く
ちどりなくなくしきりなる小
其時雨

曲肱
蓼太
完来
達琴
柳想
樂我
月泉
文母
等笠
牛毛

水鳥

松風の沖に戻るかたぶくに
似るとなく鳴く鳥の鳴くかな
ふるさとは後ろ見ぬ小松原
花ぞ散りて後の小松鳴
蛙しらしらと雲に鳴くなる
友ぞ多き月は見て蛙しぬ
ナはうかぶ水ぞ多くかな
鳴野の春ふかく月ぞ
野をしぬ年の水ぞつこと
水ぞしるしとなく鳴
ぬるぬるぬるぬるぬるぬる

東芽
六窓
蓼主
方壺
塩車
蓼太
寥松
嵐雪
蓼太
司丸
午心

海苔

木羽　月巣
吐月　午心
松伝　菅雅
紫立　大江丸
芳奴　吐月
嵐雪

沙羅　吐月　因是
完来　月巣　我友
寥松　大江丸
普成　寥松

大根引

土蕪
冬月

冬とは月人をとゝのへて淋しかり
ける冬の月山ぢかくてき木の見
ゆる月也こゝにわすれぬ友あり経
こゝにさて小流長くゝ冬は月
徳よりて白雪牛ゝ人冬ゝ月月
ゆゝしくゝてゝ冬は月おもし
冬の月時ぬ鳥の花ゝ郭
おもてゝ月ゝ我ゝ思し冬の月
冬の松ゝ月の冬ゝ八重ひゝ
天竹の新年俳ゝ冬は月
門あゝて待ゝ人ゝ冬の月

呉雪
烏山
鮫牛
陶泉
沙羅
玉章
嘯長
郎娥
蓼阿
之道
深松

帆柱の冬ゝ冬ゝ月
美人ゝ冬ゝ笑ゝぬ冬ゝ月
冬ゝ冬ゝ月ゝ冬ゝ冬ゝ月
ゝゝゝ八ゝゝ冬ゝ冬ゝ月
冬の月ゝゝ八ゝゝ冬ゝ月

久能

ゝゝゝ冬ゝ月
ゝゝゝ冬ゝ月
ゝゝゝ冬ゝ月
冬の月冬ゝ冬ゝ月

書朝
鯉半
雷堂
三鶴
雁赤
糸九
梅堂
一鷺
曉長

十月のさゝゝ冬ゝ山

完来

みち田

木の枝ふとくなりて冬田うち
ならしけり　枝もえて冬田の
水芦やひをかくれ余しけり

枯芦

枯芦やかれぶをてらく烏

枯柳

枯くて月を柳の淺水哉

蓼太

家と我家よりうきかれ

器文

枯てうきをとゞめ柳ぶ

烏兆

白雲の人遠てをし　枯柳

李蹊

ちらへて飛ぶ滝の千葉ぶ

蓼太

丁菜

蕪屋も淋しうなる紙衣ぶ

野史

蕪太

紙衣

今ハ世を素ふ〻ぶ紙衣ぶ

杉木

奏〻ねる〻〻〻〻ぶ紙衣ぶ

鬼守

ぶ〻ぶ借ぶ形もなく紙衣ぶ

吐月

ぶ〻ぶ紙衣ぶ

故班象

ぶ〻ぶ紙衣ぶ

杉門

ぶ〻ぶ紙衣ぶ

夫完来

ぶ〻ぶ世ぶ芦の穂孫ぶ紙衣

午心

納豆

納豆やうてハ雪てなしく

寥松

納豆も菜てつくゝ七里乃家

三思

冷ぶの月ぶ書ぶ納豆ぶ

十一月

霜

霜の嵐やつゝむ世姿味俗

嵐雪

吐月

五雄

吐月

素夕

蓼太

器文

烏兆

李蹊

蓼太

野史

たそかれやうねまくら藤の花に紛　史邦

旅人の伴にはぐるゝ霙かな　百淀

網代木にぞ時々ふる霙かな　廬舟

紛る霙や浪村をあらふ水の音　彭雲

凪くて浪みる霙の光りかな　涼松

月に霙にうつりてや鳥　以言

けふしと笑ふやうし霙の月　寄話

ちくの濡せうける霙かな　藁夫

夜の雨に光の帰りうきすし　一曼

挑灯に前の夜ふる霙かな　數将

控子に置けきし霙かな　玉宇

冬至

月をみて待成ちらん霙の路　月古

よ打たの三戸に響く霙かな　青牛

人くの笠さらん霙の家　柳絮

和霙や菜に依る鄰かな　吐月

時雨一夜は芝の門の霙かな　惟馨

皂莢（サイカチ）の実のかくしし霙かな　寥松

洛陽の雨のいつ迄霙の月　完来

垣の雨旅記し接の寛なる　菅雅

春くの雨のみの葉に耳　闌更

菊の雨の桜の露の霙かな　百里

雷雲の音も冬至の初めかな　完来

丹頂の鶴日ゝくく冬至ゞ
竈神ゝ松立かゝる冬至ゞ
冬ゝ鶴の不のふゝ冬て冬至ゞ
いふゝ初日ハ冬ゝ冬至梅
下新冬ゝ 鼾きゝゝ茶吟
月冬ゝ小宿松ひやくゝ吟
砲冬き老ゝ冬ゝ茶吟
老ゝ又冬ゝ無乱茶吟
ゝゝ冬ゝ厨ハゝ冬ゝ吟
冬ゝ我砲冬松竹ん茶くゝ
ゝゝんゝひゝ老ゝ茶吟

吐月
寥松
丈水
路恭
蓼太
班象
蓼主
君山
月巣
文毋
吐月

茶食

暦賣

鷦鷯

茶くゝひ花の毛衣ゝゝやゝ
くゝゝ冬ゝゝふゝ七人の子ゝゝ
冬ゝゝ冬至ゝ冬ゝ日ゝ冬ゝゝ
海ゝ餅にゝふゝ人ゝゝ鷦鷯
ゝぬふゝ拙ゝゝせんゝゝゝ
みゝゝゝ垣ゝ人ゝ吐ゝゝ
蓬茶の山ゝぬ冬乱ゝ
ゝ梅ゝ冬ゝる花の上
行ゝゝゝくゝぬゝ
稲俗の時ゝゝ冬の梅
人ゝゝ子ゝ冬ゝ冬ゝ梅

蚊牛
菅雅
寥松
吏登
蓼太
吐月
之厚
蓼太
鳴皐
連丈
信中
杉羽

寒梅

[illegible]　雪武
[illegible]　秋兎
[illegible]　班象
[illegible]　藝太

曙多

[illegible]　吐月
[illegible]　午心
[illegible]　司九
[illegible]　大江九
[illegible]　吏登
[illegible]　魚文
[illegible]　藝太

水仙

[illegible]

[illegible]　普成
[illegible]　酉摩
[illegible]　月巣
[illegible]　吐月
[illegible]　花笑
[illegible]　藝太
[illegible]　大江九
[illegible]　魚汶
[illegible]　水鶏
[illegible]　沙羅
[illegible]　藝太

鷹狩

[illegible]

顔見世

鯨

茶花

山市　一鷺　其時雨　吐月　月守　海曉　笠山　完来　豪山　了浦　蝶夢

冬蝿

冬木立

冬川

寒垢離

雑冬

髪置

冬蝿　冬の蝿　冬木立　冬川　寒垢離　雑冬　髪置

寥松　社月　宦鼠　維迪　豪山　午心　班象　氷花　治丈　左　蓼太　吐月

なにはや児に抱せる神の松　大江丸

帯ときや左しく釜に寄風し　何也足

うらやまや先霰して初元結　瑚象

氷柱

むかし寄して今日は氷柱かな　蕪太

閑しぬの世経ある氷柱かな　吐月

氷

五六間海氷らせて旭の前　月巣

氷る嬉の池にかゝふ乳気かな　華村

さる枝中に氷の上は柱小舟　蕪太

浪をも出て氷に跡や鳥の居　吐月

桂川や氷の上み汐りしら　浅乎

清氷る枝にかすみて嵐かな　百川

雪

木枯に飛雲や氷乃影白向　宗丸

門の雪倒と盥乃すじらし　嵐堂

きゝし雪や大名ふてりり遠し　史登

嫁入をつれて風あり朝の雪　蕪太

あしあとの文てきさるや朝乃雪　連太

きし雪をとよきいし又降朝に　道汶

大川や人の機嫌は朝の雨　桃隣

庭生りそをつくし雪は山　月巣

なすまに入て風なし朝の雪　善来

降積て並ぶり雪のすこし川　公東

きへゆや先つ人気乃松一本　山峰

あかりやこもる影をしく雪の松　雪蕉
汲つけぬ所もよけれ雪つもる　性月
山越て見ればたしかや雪の峯　月古
梨子売ぬ五人かゝりや雪の庭　古梅
勉強て朝とく松つもれ雪の山　文足
峰高い雪ほど松や本の雪　紫松
鳥の足ときに有所ありて雪は奈　不言
冬ぬかの中にぬしや雪は鳥士　荘丹
月夜あかる雪の松鳥まつ寸こ　古生
見しや松文録ある松の月　余仙

筆投るや雪まで張る一ちはけ　大江胤
門の前竹に松さへ竹まし誰　故羽象
紅のみふりおよる雪の夕ら哉　葉た
吉川をみかけて二日月松に　故流
能きくさ雪のふり見るべき　秋言
出るや関所あれば雪のあさ　翠江
老先き身の身力の雪の尻　月巣
朝の雪に所々に飛ひなし　蒼集
冬籠や雪を待つゝ見ゐる　本丈
何川家の影に路も修　一七　方鳥
浅草松や松の如くかゝる雪の上　宛来

[illegible]

[illegible]

[illegible]

霰霙

神樂

錺扣

下もとの苔に上もとの苔えは清水
たちかへる部屋とや教ん
月を待よ下枯たる面は清水
あまの原八百万かしこしの為
俳諸の法橋清教乃塔

百蔵
年ん
水の
雲雲
今心

石花

塔ヨ雅のつめ玉も赤人下り京　生瞑

十二月

咲々菊

こゝきゝや所在なしの岩水　藁を

こゝろ葉や奏りたせし孫の先　女花清

宴声

宴声を俳切時り鬼を外
宴あるの恨りめし　小俳諸

白麻
吐月

寒念佛

道場を紀きおもしろ河宴念仏　天唐
ゑ宴は中ゑ有河宴念佛
角ゑある大原河とは宴念仏
樹に注　おもしろん宴ねふつ
下戸部ぬおのこあよ宴念仏
宴形の佛紀しゆう寒念佛
又ゑ門ゑゑゑ寒念佛
俳八や焼ゑゑる新部し
俳八や粥の孫仕も飯帷子

夢太
玉庵
雪珊
完来
子交
眠江
秋色
沖雨

臘八

[illegible]

白川林支

佛名

[illegible]

文呈

節季候

[illegible]

歳末

年内立春

[illegible]

師走

[illegible]

[illegible]

月七日七夕又ハ盂蘭盆ハ
諸色ハ
浄瑠璃
空の日
月ハ
月ハ
月ハ

年忘

吐月　夢太　夏炉　宜麦　信中　不騫
舎手　月守　班象　吐月　柳荘　宜変

餅搗

餅つきや家毎に立て三日の陸　吐月
咲しくれ底ハ全く餅の白　升古

行年

行くとしやさくらの枝よ落　普城
除夜老て恥ひとつ　夢太
出く年や職人町ハ赤の雪　午心
行くとしやいつ拾ふ子を糸　物我

年の暮

猿猴の手ハ手ハ手の雪　嵐雪
落ちつ八笠に年ハ雪　吏登
拾小木の枝ふきの年の風　完来

世間儲の中むかしより今年は雪
降ることはあれども雪のくれ
小姓の松くるやうにしてりんさ
西行ゆいつちりりん年は雪
畑の菜はくつよさよりのくれ
動めむるに鶏きしまの雪
家のくれ東ハ高羽ゆ降りり

蓼太
吐月
寥松
其桂
蓮住
普成
完来

大晦日

みちるは塩鯨雪一寸
今年はれて掃小木世ハ一大世日
ちりかゝる庵雪一大三十日

午心
任柳
祇風

終年

殆年や人をしまて雪降

不驚

岡見

岡尺すゝ味つゝ作ひぬ小京の門
我星は家よむ上元星尺山

嵐雪
一鷺

和布刈

宝船

二艘とハ欲古拝かりれ山ゆ
祈の代よ隔子表ちりたゝ船
梅一つん尺とあるよ雪のいとゆ
とりの雪ゆ山を降ゆ仏ゆ

吐月
完来
蓼太
午心

年尾混交

[illegible]の[illegible]中[illegible]の宿　亀二
[illegible]　魚汶
[illegible]　午心

極月や門にづらく在御る　寥松
[illegible]封きる年はか刹の寺　了輔
[illegible]と[illegible]の名ぬらふ　蓼太

[illegible]郎

酒も[illegible]川たる金佛ぶ　沙羅
曉や伺ふ[illegible]ふ人[illegible]　寥松

上野[illegible]四十四所[illegible]小[illegible]
[illegible]尾久といふ宿あり[illegible]川乃
流れ[illegible]ふ[illegible]いと清く白砂
[illegible]爾久[illegible]
心[illegible]む[illegible]ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

いつの年にか[illegible]
業とする耕作とする[illegible]
朱氏の家法は[illegible]
[illegible]
人のうちたるつるよりおさめ
おのう藏にしたしめ[illegible]
[illegible]
[illegible]川は携ゆきて[illegible]

求るふ[illegible]
いうてあいるもの[illegible]
[illegible]
を助ゆて[illegible]
人もつ[illegible]
業はまちあ[illegible]
[illegible]
[illegible]

東くるまさとやうしゝ
文化丁卯春杜若月の中
なるもの

雪中菴元秉

天下一方 登龍丸

食物一切 一包 代百文
一合ほど 一巡 代六百五十文

此丸は天下一方我家の秘法にして疝癪腹痛一切妙薬
なり 壁ぬ十年世年疝癪ひく迄上痛の品に成ぬ又薬飲
みて気血枯弱疝癪疝気なれども水穀も味きこと能ざる者
も一巡して数年来の積疝も二巡にて利あるは言まつふ
ごとく 疝と治し嘔吐止め薬飲に物と開きこと能なくいあるも
疑はに見ふ開くこと気の殺まこと痛ひ血と巡りし脾胃弱
胸に気力をはしまをとこと古こはやうみ炎上者と費しこ

病延命くるるの数万人用ひ試て生功の大なるを今無双
帝代の名医の妙業之を功尤大なる
一十年世年号良　一労症の薬　一引風の薬
一からせき　一間候ぞうつき　一痰飲百結痛薬
一痰水血交ア　一痰飲出ても出ず　一動気はなく心神
一小児百日薬　一婦人産後の薬　一茶飲出て絶痛
一茶飲みて気塞り　茶痰咳茶飲ろう起る症一切みな
一茶痰

東叡山御用御書物所　江戸下谷御成道　青雲堂英文藏製

京都三条通	出雲守文政年	桑名出雲守信江	大和郡山藩十日町
大坂心斎橋	伊勢屋茂兵衛	出羽山形十日町	大坂屋次兵衛
大坂心斎橋	伊勢屋伊兵衛	山城屋伊兵衛	紙屋藤兵衛
浪華江川町	近江屋雲蔵	江戸松本町	茂松屋松兵衛
伊勢松阪市場	大阪屋武兵衛	伊勢屋善兵衛	小林屋吉兵衛
伊勢屋一郎	中橋屋長助	江戸上田	仙屋重兵衛
新町橋筋	中津屋和助	越後屋七郎兵	扇屋七郎兵
出雲屋和助	山城屋孫十郎	因幡屋八郎兵	紙屋八郎兵
紙屋茂兵衛	玉屋長兵	下野佐野天明	塩越藤三郎
因幡屋吉兵	角屋吉助	常陸土浦	鶴屋清七
因幡鳥取市	伊勢屋宗兵	上総国佐倉町	陸奥屋長兵
伊勢屋宗兵	秋田八郎右	江戸本石町十軒店	美濃屋仙

上イウセ十八

福嶋縣下岩代國信夫郡

土湯村字立村

六番地　會津盛渡邊藩

6305